

平成 30 年度第 5 回古賀市子ども・子育て会議 議事録

開催日時		平成 31 年 2 月 13 日（火） 14：00～15:50		
開催場所		サンコスモ古賀 201 会議室	公開の可否	可
事務局		保健福祉部子育て支援課	傍聴者数	なし
公開しなかった理由				
出席者	委 員	森保之会長、桑野嘉津子委員、青木扶美子委員、梯裕子委員、薄秀治委員、天久真吾委員、伊豆剛直委員、末次威生委員、藤田勉委員、前野恵理委員、久保田純子委員		
	事務局	野村保健福祉部長、村山子育て支援課長、渋谷子育て支援係長、坂井保育・手当係長、佐藤子育て支援係員		
	その他	なし		
議 題		・ 第 4 回会議の議事録について ・ 特定教育・保育施設の利用定員変更の答申について ・ 子ども・子育て支援事業計画に係るニーズ調査の報告		
配布資料		○資料 1 「子育て会議（H30第4回）議事録」 ○資料 2 「特定教育・保育施設の利用定員変更について（答申）」 ○資料 3 「子ども・子育て支援事業計画に係るニーズ調査の報告（速報版）（資料 3）」 3－1 「支援者ヒアリング・高校生ヒアリング まとめ」		

○次第

1. 開会あいさつ
 2. 会長あいさつ
 3. 第4回会議の議事録について（資料1）
 4. 特定教育・保育施設の利用定員変更の答申について（資料2）
 5. 子ども・子育て支援事業計画に係るニーズ調査の報告（速報版）（資料3）
 6. その他
 7. 閉会あいさつ
-

平成30年度第5回古賀市子ども・子育て会議（概要）

1. 開会あいさつ

2. 会長あいさつ

3. 第4回会議の議事録について（資料1）

委員により内容について承認される。

4. 特定教育・保育施設の利用定員変更の答申について（資料2）

会長から保健福祉部長へ答申を行う。

※ 29年度事業評価に対する質問の回答について

事務局より、当日配布した追加資料に基づき、前回会議で委員からなされた質問への回答を所管課から得た旨説明を行う。

各委員からの特段の質問・意見はなく、承認される。

5. 子ども・子育て支援事業計画に係るニーズ調査の報告（速報版）（資料3）

事務局より報告の流れについて説明を行う。続いて、コンサルよりニーズ調査の報告の説明を行う。

委員からの意見は次のとおり。

（委員）P6で二つあり、一つはグラフの部分で数値がないところがあるので、それは何なのかという問題点と、もう一つは説明のこのグラフの中で「保育士、幼稚園の先生、学校の先生」等が改善されたというように説明されましたが、その理由を聞かせいただければと思います。

（コンサル） まず数値のハイフンですが、誤植でございます。申し訳ございません。続きまして、「保育所、幼稚園、学校の保護者の仲間」や「保育士、幼稚園の先生、学校の先生」といった

ところが割合について改善していると指摘した点については、課題があったことが前提ではないかというご質問ですが、認定子ども園に相談機能を持たせる等、子育て家庭が孤立しないようにしていくというのが国の方針でもございました。こうした園等による子育て相談の数が上がってきているところについてはこれまでの取り組みの評価の部分もあると思った次第です。

（委員）では、上の部分の「職場の人、友人」が増えている部分は国の方針ではそういったところの指摘はないわけでしょうか。

（コンサル）職場の部分については国の方針等については出ておりませんので、市の施策の効果や社会動向についての効果は考察としてはございません。

事務局による資料３－１の見方について説明を行う。

（会長）この会に参加していただいた方３名に感想を伺って皆で共有したいと思います。

（委員）支援者と高校生ヒアリングの両方へ参加させていただいて、顔の見合わせた支援者、合わせたことがない支援者で一同に介して、一緒に子どものことを考える場にいられたということや、考えているところや目指したいところやそれぞれの活動は違っていても同じワードがいっぱい出てきていて、確認できたことがとてもよかったです。やはり「地域」という言葉はたくさん出ていて、地域で活動しながら地域の子どもたちを育てるということ、それぞれのその学校単位や、地域単位というような、それらが集まってまちになるという意識が皆さん強く、例えば公民館を自由に使えないかといったような話もよく出ていて、やはり地域を大事にして地域の子どもを育てたいという思いを共有できたことがとてもいい場でした。最初、高校生は話してくれるのか不安でしたが、係の方の事前の準備があったこともあり、皆さん豊かに話してくれてとてもうれしかったです。感じて考えて何か行動に起こさなければというところまで考えていることがよく分かって、いい時間を過ごせました。印象に残っているのが、高齢社会になっていく時にその高齢者をみるのは自分たちだ、でも自分たちは今高齢者になる方々とそんなにつながっていない、知らない人のお世話できないから知っておきたいと言っていました。だから、今のうちに地域の中でそういう人たちと関わる場面ができるといいねと言い出した人した人は１人ではなく、その辺りを感じている子たちがちゃんといえることを感じました。そういう発言を聞いて全然考えてなかったという子が気づいていく場面もとてもよかったです。地域の中で自分が育っているということをすごく感じてくれているのがとてもよかったと思うし、支援者の方も地域で子どもを育てたい、子どもたちも地域の中で育ちたいということが共にあることが二つ場面を見てよく分かりました。大人たちが聞いてくれる場があるから私たちはしゃべりたいということを言っていて、そういう場を作るということは大事だと思いますし、高校生たちは何か動き出したいというエネルギーを持っているということがこの会に参加させてもらってよく分かりました。ヒアリングとしてもこういう場はとても大事だと思ったのですが、今後もこういう場で子どもたちがちゃんと自分の言葉でまちのことや自分の育つ環境のこと等を語れる場をつくっていくことは大事だと参加して感じたところです。

（委員）私は地域支援者のグループに入り、一番言われていたのは地域の公民館が自由に入れな

いから困ったという意見でした。住民はいつでも迎え入れる公民館であれば高齢者から乳幼児を抱えたお母さんまで参加できるというところがすごく話にありました。行政の公民館は古賀市の方から管理を担当している人が毎日常駐してお金を出したらどうかという話が出ているのに、それは自治会がやらなければいけないことではないかという指摘をされたのでちょっとがっかりしたのですが、そういうところも考えながら、いろんな人が関わってすることが一番大事かと思いました。

（委員）私も地域支援の方で参加させていただきました。公民館もそうなのですが、主にお母さん方で困っていても誰に言えばいいのか分からず結局行政に話すところまでできない、結局携わってくれる方が少ないからなかなか広がっていかない、そういう地域絡みのこともあるからもっと広げていきたいという話をいろいろと支援者の方たちととても有意義な話ができと思いました。いろんな方の話を聞けて、考えが広がったのでまたいろんなことで子どもたちと携わっていったらと思います。

（会長）全体にお三方の声を伺って、他の方は感想等ありますか。

（委員）私は古賀市の中の中央公民館の運営委員をやっていますが、地域の中で活発に動いているのはシニア世代の人たちがいろんな活動をやっているんですが、そこに子育て中のお母さんといったような方々を受け入れられる地域が少ないからこのヒアリングの中で出てきたのだらうと思います。そこをどうしていくかとなると、活動も年に何回かゴルフの大会やスポーツ大会等を行っていますが、コミュニティというのはもっと地域に根ざして日常的に月に何度か公民館を利用したかたちで集まってコミュニティ活動することの方が大事だと思います。今どのくらいの予算があるかどうかは知りませんが、私が最初の頃では70万ぐらい予算があり、それを身近なもので若者や子育て中のお母さんが集まるきっかけ等をつくっていけば、少しは大成するかと思いました。

（会長）結局、場所ですね。つながるためには空間が必要で、その一つとして公民館が話題に出っていますが、何かありますか。古賀市の場合は公民館とは自治会でしょうか、それともコミュニティセンターのようなものでしょうか。

（事務局）自治会になっております。古賀市が持っている公民館としては中央公民館という大きな施設となります。

（会長）市の施策として、郷土の町ということでコミュニティセンターのようなかたちで、希望としては小学校区ぐらいでひとつのコミュニティをつくって、そこでコミュニティ活動をしっかりやろうという動きが平成15年ぐらいからずっと広がっています。古賀市の場合は、どちらかというと昔からやっている自治会が中心となっているということですね。公民館とは皆の場所と思うのですがその辺りはまだまだ十分ということですね。

（委員）行政区で40ぐらいの公民館があります。そこはほとんど常駐している方がいらっやいません。

（会長）昔からの伝統的な部分の公民館だと思います。今はどちらかというともう少しそれを広げて、皆でコミュニティとしてやっていくのは大事だと思いますが、そこをどのように運営して

いくのか、これは市の施策でもあります但那りとはとても大事なところだと思います。

（委員）コミュニティの運営の地盤の見直しを提案していかなければいけないと思います。

（会長）実は学校は今年からコミュニティスクールになります。地域によって取り組みのギャップが激しいです。学校で地域の公民館のような役割、または地域の礎というか活性化の役割ということが言われています。しかし国の動きとしては、それは学校だけではなくて公民館と両輪になってやっていくというスタンスなのです。だから今そうやって自治会、要するに旧自治会で運営している公民館、この辺りは今後、道筋について上の方はどのように考えているかですね。いろんな子育ての支援で施策を打ってもその辺りは結構大きな壁になると思います。つながるとか地域の人と関わりたい、世代間交流ということを求めているのです。大学でも地域貢献活動をやっていききたいという飢えている現状もあります。子どもの力というのは大きいので、子どもを中心とした地域づくりが重要です。だから、学校を活用した地域づくりと今言っているといいますが、子どもを活用した地域づくりというのが本筋ではないかと思ひます。

グループで次年度の計画策定に向けて、今まで出たことを含めて議論をしていただきたいと思ひます。

（20 分グループ協議）

（会長）いろんなアンケートやデータや声等を反映しながら具体的に計画の策定になっていますから、感想でもどんなことでもいいのでお願いします。

（委員）それぞれの地域で地域の方々が熱心に活動しているのですが、それがなかなか広がっていかないし、そこで声を上げててもあまり届かないので、なぜ届かないのだろうというようなことから話が始まったのですが、それぞれの活動のつながりがないと、例えば 1 人が声を上げてても行政としてそのグループにだけ関わるということはなかなか難しいのではないかとということで、できれば活動をしている人たちがネットワークをつくるようなかたちで、行政主導ではなくそういう活動している市民のグループ活動と行政の支援が両輪になるような活動ができるようになると思ひます。やはり、そのためにはネットワークをうまくつくって、ひとつの市民の力にしていく方法をどのようにしていけばいいのかということ、それぞれのグループがいい活動をしていても、それを市でうまく伝えることができないので、活動を皆に知ってもらうための方法、広報誌やウェブ上でリンクさせるとかそういうこともいいのではないかとこの話をしました。人と人とのつながり、どんな活動でもつながりをつくっていくところが重要じゃないかと思ひます。

（会長）多分ここに出てきた子どもたちはよく言葉を持って意見が言える子たちでそうではない子たちもいるはずですが、でもこの子たちがたくさん意見を言えるような場をつくって意見を言えると、ちょっとずつその輪が広がっていくという、そういう活動というのも今からつながって増えていくといいという話が出ていました。また、教育に関わる先生からもご意見いただいたのですが、どうしても 3 年、6 年というスパンで子どもたちの結果を大人側が求める社会の中、そ

の期待に答えるべく先生方は努力をしてくださっているのですが、でも立ち位置としては子どもが大人になるまで長いスパンを歩いているというところを皆で見守っていきたいと、ここの3年間でどうにかなることではないというところもおっしゃってくださって嬉しかったです。子どもが主役、その主役の成長をちゃんと認めるということも大事なので、そういう場も必要だと。だから見守る大人側の、子どもの育ちの何が大事で何を認めるか、何を提供して子どもたちにそういった往き来とか活動が広がっていけば、大人側がどう提供できるものがどのようにつくっていくのかが大事だと思いました。

（委員）小学校を卒業後、そこで気を抜いてしまうという親の意識ですね。そこが変わります。小学校の時から大人になっても参加できる、そのような地域の有り様というものが大事だと思いました。

（会長）先生たちと学び続ける、だから親も学び続ける。そういう環境づくりですね。

（委員）昔、私も若い頃だと結果を出すことが大事だと思っていましたが、幼稚園で20数年勤務させてもらって、幼稚園の時に結果が出たからそれでいいわけではなくて、やはりその先を見てここの結果を出すのではなくて、子どもたちそれぞれの成長、特に3歳、4歳辺りだと4月生まれと3月生まれでは全く違うので、その一人一人の子どもたちが成長していくのを、大人がどうしても結果を「うちの子をもっとこうしてください」といったように言われがちですがそうではないですよということで、子どもたち一人一人スタートが違うと思うのですが、そうやって成長していくところを見守れる周りがあると子どもたちもがんばれるのではないかと思います。何かがんばったのであればそこをしっかり認めてあげて、またそれをさらによくするためのアドバイスをしてあげれば、子どもたちが大人たちの言うことをいろいろ聞いてくれるのではないかと思います。だから、大人たちから頭ごなしに言われる子どもたちは、大人を否定するとか、「どうせ大人に言ってもこう言われる」というようになるのではないかと感じます。

（委員）今回の子育て会議に参加して、アンケートを拝見して、今の古賀市の中での保護者の考え、高校生の方の考え、こういったものがアンケートの中にしっかり出ていると思いました。もう一つ、高校生と地域の方のお話の場、こういったものが子ども・子育て会議の中で出されたということは、今の若い方は非常にありがたいと思いました。それから、古賀市の中でも子育ての活動は活発に行われている地域とあまり行われていない地域との差があります。それから全体的に言うと、こういったことをやっていけばもっと古賀市の中の子どもたちの活動が活発になるのではないかと、皆さんと共有して話をしたいと思います。その一つが古賀市の中でコミュニティというものが校区でできました。それまでは地域の47行政区の公民館でいろいろ活動をしていました。でも、10年前からコミュニティの場となりました。なぜかという、一つの行政区でできないことを地域の中で一つの行政区でできないことを校区の中の問題としてとらえて解決していこうというようなかたちでコミュニティができたからです。でもこのコミュニティがまだせっかくできて機能していないのではないかと思います。各校区の中にある行政の公民館が4、5件ありますから持ち回りで校区のコミュニティが一つになって、子どもたちの実行委員会といったようなものを提案してもいいのではないかと思います。今、感じているのは、子

ども育成委員会がありますが、それに来る子どもと来ない子どもがはっきりしているわけです。そういったことではなくて、全ての子どもが参加できるようなそういったものを立ち上げてもらったらいいと思います。ここ数年前から成人式の実行委員会が今まで行政区が主導になってやっていたのですが、当事者の新成人の中から実行委員を募ってやってもらう、それがとても評判がよかったです。そういったものを古賀市の地域のコミュニティの中でつくって、子どもたちが自主的に考えて活動する、そういったものを少し指導しながらやっていくと良いと思います。高校生ヒアリング・地域のヒアリング、これを地域の方にどんどんまとめて知らせ、そういったものを市でやってもらうという方向性をこの子育て会議の中から出していただければいいと感じました。

（会長）皆さんの声を聞きながら、私は古賀市の全体を見て今がチャンスだと思いました。なぜかというと、学校がコミュニティスクールを立ち上げたのは、学校・家庭・地域とか行政も含めて、子どもたちを育てる学校にしますということです。だから、学校運営協議会を設置しました。最初に考えなければいけないこととして、全て中心は子どもだということです。子どもも大人も学び続けるネットワークからしかないと。ですから、子育てサロン・いきいきサロン・子育てカフェといったような場を提供しながら皆が学び続けていきます。そして生涯、教育として皆で楽しもうではないかと。最初、公民館の問題が出ましたがそれはあくまでも場であって、願いは子どもたちを中心に置いて大人も一緒に学び楽しみながらしていくような体制づくり、ネットワークですね。その根底には核家族では限界があります。祖父母と一緒に生活していなくても、公民館に行けば高齢の方々が教えてくれる。そういったネットワーク、それは今回の方向性のヒアリングで随分感じました。既に先行的にやっているところはあるので、いいところを互いに真似してそういうのをどんどん広げていく、きっかけづくりが大事だと思います。もともと私がいた学校はいきいきサロンを自分たちで楽しんでやりました。低学年の子どもたちはお楽しみ会のように出し物をしてくれましたし、高学年になってくると高齢者に優しい食事の準備などを地域のお母さんたちと並んでやっていました。それがきっかけです。そうすると、毎月のいきいきサロンが楽しみで仕方がないからもっとやってほしいといったような声がありました。それから15年経っているのですが、どんどんそれが広がっています。こういうものを計画の中にキーワードとして反映できればと思います。

6. その他

（事務局）来年度の会議のスケジュールについて説明。次年度は計6回を予定。計画策定の年となっているため、6月を第1回とし、それ以降は7、8、9と月に1回ずつのペースで集まっていたと考えている。11月には利用者の定員。最後を2月とし、パブリックコメントが終わった後に結果報告というような流れでいきたい。